

3月19日（日） ショートメッセージ

聖書 ルカによる福音書 22章54節～65節 （新約 156頁）

メッセージ 「主は振り向いた」

主は振り向いてペトロを見つめられた。ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。

（ルカによる福音書 22章61節）

（1）イエス様は、まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってオリーブ山にやって来た人々に、無抵抗のまま拘束されてしまいました。そして、大祭司の家に連行されていきました。イエス様の弟子のリーダーであるペトロは、人々から気付かれないうように遠く離れてついていきました。

（2）大祭司の家の中庭では火がたかれ、その周りに人々が座っていました。その人々の中にペトロも混じり、腰を下ろしていました。火がペトロの顔を照らします。すると、ペトロの顔をじっと見つめていた女中がペトロに向かって言いました。「この人も一緒にいました」。女中は、ここにいる男は、連行されてきたイエスと一緒にいたと指摘しました。ペトロはとっさに否定しました。「私はあの人を知らない」。

少したった後、他の人がペトロを見て、「お前もあの連中の仲間だ」と言いました。ペトロは再び否定しました。「いや、そうではない」。

一時間ほどたった時のことです。別の人がペトロに、「確かにこの人も一緒だった。ガリラヤの者だから」と言い張りました。ペトロは否定し、「あなたの言うことは分からない」と言いましたが、ペトロが言い終わらないうちに、突然、鶏が鳴きました。すると、ペトロにはイエス様の姿が見えました。それは、ペトロの心象風景だったかもしれません。しかし、ペトロにはイエス様が自分の方を振り向いて、自分を見つめ

たのが見えたのです。すると突然、イエス様が過越の食事の後で言われた言葉がペトロの心に蘇ってきました。「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。ペトロは大祭司の家の庭から外に出ると、激しく泣きました。

その頃、大祭司の屋敷の中でイエス様は見張りの者たちによって何度も殴られ、ののしられ、辱められていました。夜が明けると、イエス様を不当に裁く最高法院を開くために、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まって来ました。

（3）過越の食事の後、イエス様はペトロにこう伝えていました。「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい。」（31節～32節）

するとシモン・ペトロは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」（33節）と言いました。この時、イエス様がペトロへ伝えた言葉、それが、大祭司の家の庭でペトロの心に蘇ってきたあの言葉です。

ペトロを見つめたイエス様の眼差し、それは決してペトロを非難したり、見限ったりする眼差しではなかったことでしょう。その眼差しは私たちに、この世界にも向けられていることでしょう。（多田玲一牧師）